

音楽科学習指導案

授業日時
授業学級
授業会場
授業者
指導教員

令和元年9月2日(水) 第3校時
3年B組 男子20名 女子20名 計40名
音楽室

1 題材名 「曲想を生かして表情豊かに歌おう」
(3年 歌唱『帰れソレントへ』)

2 本時の主眼

『帰れソレントへ』を原語で歌う場面で、ポピュラー音楽との歌い方の違いや日本語版の歌との発音の違いを感じながら歌うことを通して、『帰れソレントへ』の雰囲気を感じながらイタリア語で歌うことができるようになる。

3 本時の位置 (全3時間扱い中 第1時)

<前時>イタリアの文化に触れ、『帰れソレントへ』へを歌えるようになった。
<次時>

4 指導上の留意点

- ・範唱を聴いて、声の音色や歌い方の特徴を感じ取らせるよう促す。
- ・高音域を歌うときに声が出しづらい生徒に無理をさせないように配慮する。

5 展 開

過程	学習活動	予想される生徒の反応や意識 (◎)	教師の支援 (・) と 評価	時間
導 入	1 イタリアに伝統音楽を聴く。	◎ディズニーランドで流れてそうな曲だな。 ◎外国の音楽とかにありそうだな。イタリアとかで流れてそう。 ◎マンドリンみたいな楽器を使ってるな。	・イタリアの伝統音楽を流し「どこ (の国) で流れていそうな曲ですか？」と尋ねることで、外国の音楽を学習していくことの関心を高めることができるようにする。	5分
	2 イタリアの風景の写真を提示しながらイタリアの文化について触れる。	◎日本とは全然違う景色だ。 ◎文化の違いがあるなあ。 ◎イタリアに行ってみたいな。 ◎国が違うだけで全然違って見えるんだ。	・「イタリアと言えバ？」と尋ねることでイタリアについてのイメージを想像することができる。 ・パワーポイントでの写真のまとめを見せることで生徒たちの想像していたイタリアのイメージをより具体的にイメージできるようにする。	10分
	3 パヴァロッティの歌っている『帰れソレントへ』を聴く。	◎Yesterday とは違う歌い方だな。 ◎Yesterday はポップスっぽかったけどこの曲はオペラっぽいな。 ◎3大テノール歌手の人だ。 ◎ビブラートがすごいかかっているね。 ◎オーケストラが伴奏だと壮大な音楽に聞こえるな。 ◎オーケストラに負けない音量で歌っていてすごいな。 ◎こんな風に歌えるのかな。	・『Yesterday』と歌い方がどう違いますか？」と尋ねることでポピュラー音楽との歌い方が違うということが理解できるようにする。 ・パヴァロッティについて触れることで生徒たちの興味関心を引き出すことができるようにする。	5分
	学習課題：日本語との違いを感じながら発音に注意して『帰れソレントへ』を歌おう			

展 開	4 全体でイタリア語の歌詞の発音を確認する。	◎英語とは違う言語だからむずかしいな。 ◎単語の区切りはどこなんだろう。 ◎歌詞の意味はどんな意味なんだろう。	・発音の仕方について伝えることでより範唱の発音に近づけることができる。 ・歌詞の意味に興味を持っている生徒に対しておおまかに意味を伝えることで曲に対する関心を高めることができるようにする。	10分
	5 発音に注意しながら旋律の音取りをする。	◎発音だけだと発音に集中できたけど、音程もとるとなるとさらに難しくなるな。 ◎長調から短調に変わっているな。 ◎rit.とかフェルマータが多いな。	・音程をとることがむずかしい箇所があるところはその部分を取り出し、歌詞をつけないで歌うようにすることでより正確な音程で歌うことができるようにする。 違う言語の曲に対して意欲的に取り組めたかどうか歌っている様子の態度や振り返りのワークシートから評価する。	10分
終 末	6 本時の振り返りを行う。	◎歌い方についてもっと勉強したいな。 ◎ビブラートもっとかけたい。 ◎詳しい歌詞の意味をしりたいな。 ◎パヴァロッティの歌ってる曲をもっと聞きたくなった。 ◎思いを込めて歌いたくなったな。	・本時の活動を通して感じたことを尋ねることで本時の内容を振り返ることができるようにする。 ・次時に歌詞の内容を学び曲想に生かす授業を行うと伝えることで授業の見通しを持つことができるようにする。	5分

6 板書計画

帰れソレントへ	学習課題：日本語との違いを感じながら発音に注意して歌おう
○どこで流れていそうな音楽？	○イタリアと言えば？
・ディズニー	・ピザ
・イタリア	・ローマ
・テーマパーク	・パスタ
	・長靴の形の国

準備するもの

- ・ワークシート
- ・パワーポイント（風景画）
- ・パヴァロッティの映像（Youtube）

7 使用教材

ワークシート

パワーポイント

8 資料